

科目名	人間と倫理 Introduction to Ethics						
科目担当者	中本 幹生 NAKAMOTO Mikio						
単位数	2	配当年次	1年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科 [総合教育科目 人間形成] 経営学部・経営学科 [総合教育科目 人間形成]					ディプロマポリシーとの関連	(1) (4)
授業の概要	20・21世紀における科学技術の進歩は、私たちに様々な可能性を与えてきた。それによって従来なしえなかったことが可能となり、行為の選択の幅が拡大されたのである。それは、豊かな生活をもたらした反面、その一方で新たな倫理的問題に私たちを直面させている。例えば医療の現場における安楽死や尊厳死の是非、脳死と臓器移植の問題、遺伝子操作やサイボーグ技術のあり方等が倫理的な問題として問われ、人間の生と死についての再考を私たちに迫っている。この授業では、このような医療現場における個々の具体的問題を考えること通して、人間の生と死についての考察を深めたい。人間の生命とは何か、それは私たち一人一人が考えるべき問題である。思想的レベルでこの問題を考察し、各自の考えを深めることにしたい。						
授業の到達目標	①生命倫理の諸問題について、基礎的な知識について正しく説明することができるようになる。 ②生命倫理の諸問題について、その賛否両論を公平に踏まえた上で思考することができる ③人間の生と死という根源的な問題について、自分の考えをもつことができるようになる。						
授業計画・内容	1	安楽死の分類と現状					
	2	安楽死・尊厳死の是非 (1) —レイチェルスとビーチャムの論争—					
	3	安楽死・尊厳死の是非 (2) —なぜ人を殺してはいけないのか?—					
	4	安楽死・尊厳死の是非 (3) —具体例で考える—					
	5	グループワーク (安楽死問題について)					
	6	人工妊娠中絶の是非					
	7	優生学の問題					
	8	出生前診断の是非					
	9	グループワーク (出生前診断について)					
	10	全脳死は人の死か? (1) —その賛成論—					
	11	全脳死は人の死か? (2) —その反対論—					
	12	大脳死と臓器移植					
	13	サイボーグ技術の是非					
	14	グループワーク (脳死問題について)					
	15	着床前診断の是非について					
授業外学修 (事前学修)	毎回、授業範囲を予習し、専門用語の意味等をあらかじめ調べておくこと (毎週 2 時間程度)						
授業外学修 (事後学修)	毎回、授業内容について要点を整理し、不明な箇所を調べておくこと (毎週 2 時間程度)						
成績評価方法・評価比率・到達目標との対応	成績評価方法					評価比率	到達目標との対応
	定期試験					100%	①②③
成績評価基準	秀：(評点 90 点以上) 到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：(評点 80 点～89 点) 到達目標を高い水準で達成している場合 良：(評点 70 点～79 点) 到達目標を一定の水準で達成している場合 可：(評点 60 点～69 点) 到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：(評点 60 点未満) 到達目標に達していない場合						
教科書	なし						
参考文献	授業中に適宜指示する						
その他	各回ごとの授業内容は、授業の進行に応じて一部変更することがあります。						